

平成 24 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4075500548		
法人名	有限会社ウェルハート		
事業所名	グループホーム幸生園		
所在地	福岡県宮若市龍徳1488番地		
自己評価作成日	平成25年1月4日	評価結果確定日	平成25年1月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年1月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念に沿った地域との交流のもとで「明るく、優しく、元気よく」をモットーにチームワークでの介護を目指しています。また、利用者の方々には「目配り、気配り、心配りを心がけ、仕事の三要素である「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」努力を惜しみません。何事にも利用者中心に考え、行動し、常に身近な存在で頼れる職員育成に努めていきます。

開設8年目を迎え、自治会の広報誌と一緒にホームのお知らせを配布いただいたり、小学校の福祉体験学習では児童が計画したプログラムで入居者と交流したり、納涼会には児童の父兄や近所の住民、ボランティア等で100人の参加があるなど、地域との交流も深まりつつある。理念の実践に向けて、仕事三要素や目配り、気配り、心配りに取組み、家族から転倒防止のためにベルトを使用する要請があった時も、入居者本位の取り組みで家族の理解を得ている。また、「ちょっと待って」と言わない介護を心掛けたり、車椅子から歩行器へ、這う移動から歩行への支援で、排泄の自立を支援している。定期的に開催している運営会議では、委員から近隣の高齢者の近況等の報告もあり、ホームを隣組の集いに活用していただくよう声かけをしている。今後も地域密着型サービスとして、地域に向けた福祉や介護の情報発信の継続や更なる理念の実践が期待できるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **もみじ棟／グループホーム幸生園**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流のもとで「明るく、優しく、元氣よく」という理念の実践に努めている	簡潔に表現された理念の実践に向けて、入居者の思いを叶える介護を心掛け、仕事三要素や目配り、気配り、心配りを3セットとして掲示している。職員は毎日、新しい気持ちで元氣よく声かけするように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	任意ではあったが、自治会に加入し、地域との交流もしている(餅を配ったり、畑の手入れを教えてもらったりしている)。また、宮田北小学校との交流も3年続いている	自治会の広報誌と一緒にホームのお知らせを配布いただくなど、地域の理解や協力が進んでいる。隣組の集会にホームの利用を提案している。小学校の福祉体験で1学年が年間3～4回交流に訪れ、児童が計画したプログラムで入居者との交流を楽しんでいる。納涼会には、児童の父母や近隣の人、ボランティア等100人の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の福祉体験学習への協力のほか、福祉の仕事への携わりを望んでいる方々にも無料職場体験をしていただき、支援している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに地域区長、民生委員、市担当者、家族代表の参加で開催し、貴重なご意見を頂いている	参加者の都合を伺いながら開催日を決めたり、短時間でも入居者に順番で参加してもらっている。会議では行事の案内や実施状況を報告し、委員から近隣の高齢者の近況等が報告されることもある。欠席の委員には書面で報告し、玄関に運営推進会議綴りを置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	徘徊ネットワークの活用。 小さな疑問等が生じた場合は、その都度、自己判断をせず、市町村等の関係機関に連絡をし、指導を仰いでいる	市町村、広域連合の担当者とは、園長が訪庁して相談するなど連携を密にしている。地域包括支援センターと今後も入居者情報、研修会開催について連携に取り組む予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等や研修で学び、身体拘束をしないケア実践に努めている	家族から転倒防止のためにベルトを使用する要請があった時も、入居者本位に取り組み、家族の理解を得ている。玄関は施錠せず、職員の気配りで対応している。近隣の方も入居者の顔を見知っており、道路等で見かければ通報がある関係である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、研修等で学び、虐待はいかなる時でもしてはいけないことを学び、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業に関するパンフレット等を玄関に整備し、勉強で学んでいる	入居時に制度について説明している。今後、介護相談員の活用を検討し、サービス向上につなげたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明時にキーパーソンを尋ね、その方を主として、契約等の詳しい説明を管理者が説明している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度開催される運営推進会議において、家族代表の方々にも意見を述べてもらえるようにしている。また、気軽に意見、要望を述べていただけるよう、玄関に意見箱も設置している	家族の意向や意見を伺うため、年に1度、家族に向けて、介護意向確認の文書を送付している。「幸生園ファミリーだより」には、担当者、園長のコメントで入居者の日常の様子を知らせて、家族の要望が出やすいよう工夫している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会の際に意見、提案を述べてもらうように努めている	2カ月毎の職員のミーティングは夕刻から開催され、全職員が参加している。職員同志がお互いの良いところ、して欲しいことを伝え合うようにしている。大浴槽の改装やユニット間の異動について意見があり、検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二度職員より自己評価をしてもらい、それに対しアドバイス及び個人の評価を行い、給与や賞与に還元している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって、性別年齢での理由で対象からの排除はない。ただし、当園の理念を理解されなかったり、条件面での不都合が生じた際は、不採用の場合もある	ハローワーク、人材バンク、チラシ等で募集し、面接時に理念を説明している。シフトで土、日曜日が休日ではないためか、若い人の定着率が低いが、シフト交換の日にはボランティアとして手伝う退職した職員もいる。今年は3名の職員が介護福祉士の試験に挑戦し、シフトの調整等で支援している。	ミーティングで、ポイントを押さえた勉強会が実施されているので、新任研修、現任研修に分けた研修計画を作成され、職員育成に活用されることをお勧めします。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会を始め、人権学習等には、積極的に参加をし、入居者に反映できるよう、理念に基づいた取り組みをしている	地域同業者協議会GHみやわかの勉強会に参加したり、ミーティングでも勉強内容に取り入れている。入居者の自発的な発言を促すよう常に聴くことを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務状況を把握しながら、研修等に参加するようにしている。人手不足もあり、なかなか参加が難しい		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわかに参加し、定期的に研修会を開き、情報を得ている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、情報収集し、本人の希望等を把握している。また、数日の体験入居も実施していただいている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面接を行い、家族の希望等も把握し、ホーム見学を実施している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が何を望まれているのかを家族ときちんと話し合い、職員とも会議を設けて、必要な機関への対応も出来るように話し合いをもっている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を第一に考え、個々の考えにあわせた介護をしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族でなければ出来ないことは協力をお願いし、利用者とともに支えあえるようにしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きつけのお店(床屋、時計屋等)を利用するようにしている。また、訪問(面会)についても特別な事情がない限り応じている	生花教室や陶芸教室を定期的で開催し、入居者の趣味の継続を支援している。また、家族と電話で話したり、年賀状を友人等に出したり、関西在住の家族の来園や友人の訪問が継続できるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全利用者が話を合わせられるような環境づくりをしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	園へのイベントの誘いの案内をしたり、亡くなられた利用者に対しては告別式や初盆の挨拶は欠かしていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方が何を望んでられるのかを会話対応をし、じっくり傾聴しながら検討している	入居前に自宅や病院に面会に行き、本人と家族から聞いた情報を整備している。職員間で情報交換して、さらなる思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々での生活が違うので、本人や家族、馴染みの方からの情報収集を把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時にスタッフとの情報を共有し、業務日誌に目を通し、押印し、把握している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や、本人の日ごろの言葉から汲み取るようにしている。また、担当職員に出来るものはお願いしている	入居者の担当職員がアセスメント及び介護計画を記入して、担当者会議、モニタリングで情報を共有するシステムを実施している。ミーティングでは、入居者への対応の統一を図るために、意見交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護をしているのか、日々の記録で情報を共有し、実践及び介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長年、利用者がかかりつけているHP等に車で送迎している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校との交流の実施、必要時には消防等の連携にて避難訓練等を行っている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週一回の訪問診察を受け、健康管理をしている。専門医受診が必要な場合はかかりつけ医の紹介状を持参している	訪問診療や、24時間体制で協力医療機関からアドバイスを受ける体制が取られている。市外の専門医受診は家族にお願いしているが、市内の受診は支援している。毎日のバイタルチェックは看護職員が記録し、主治医や家族との連絡を行っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば報告するようにしている。看護職員が休みの場合は、電話連絡をし、適切な助言をしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、お見舞いに行き、本人の把握とソーシャルワーカーとの情報交換をしている。病状が安定し、問題がなければ退院を働きかけている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルに関する指針や入居者家族の同意書を整備し、入居時に説明している。また、限界が近づく前に、かかりつけ医、家族とも今後の方針について相談している	整備した「重度化および看取りに関する指針」を入居契約時に説明し、同意書を交わしている。状態の変化や主治医より終末期の告知があった場合は、再度同意書を取り交わす手順にしているが、今までに看取りの経験はない。日頃の会話の中で、入居者がどのような終末期を過ごしたいかを把握したり、今の気持ちを聞くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを目に付く場所におき、熟知してもらうように指導している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤帯での災害等を想定し、入居者とともに避難訓練を年二回実施している	避難訓練実施日は、近所の在宅の高齢者にも周知している。入居者で避難を億劫がる場合もあるため、今後は実施回数や導入の工夫などを検討する予定である。水やカップ麺、カセットコンロ等の備蓄を整備し、訓練時に利用して入れ替えをしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報など分かるものの園外持ち出しを禁止している。また、入居者の方々には敬語を使って対応をしている	常時、動向に気配りが必要な入居者の居室は居間側のドアは開放しているが、暖簾が掛けられ、プライバシーに配慮した工夫がなされている。できるだけ、「ちょっと待って」を言わないで介護することを心掛けたり、生活歴から入居者に添った言葉かけをしている	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、思いを尊重しながら対応する。説得をせず、納得をしてもらうまで一緒に考える		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて、声かけなどをする		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には、馴染みの理美容室に連れて行っている。月一回ボランティアの協力にてお化粧をしたり、化粧品購入し個人でお化粧されている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭園でとれた野菜を使ったりしている。入居者の体調を伺いながら手伝ってもらう	出来るだけ普通食を提供するために、切り方や煮方を工夫したり、旬の食材を取り入れた献立で、入居者のほとんどが完食されている。水分制限がある入居者には個別の記録することで対応している。近日中に退院予定の胃ろう造設をした入居者の退院前関与の話し合いに、園長が参加する予定である	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回体重測定し、コントロールをしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、晩の口腔ケアの実施している。体力、機能に応じて歯ブラシをかえたり、介助などをしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態にあったトイレ誘導、声かけ。日中は布パンツ、就寝時のみ紙パンツ、尿失禁の多い方は就寝時のみ紙おむつ。スタッフを呼ばれると歩行器で問ういれ誘導、間に合わない方は居室にPW設置。	車椅子から歩行器へ、這う移動から歩行へと生活の自立に向けた支援で、排泄の自立を支援している。自宅での習慣でポータブルトイレに固執する入居者もあり、清掃と換気に気配りし、匂いのない快適な生活を提供している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけ、個々の排便のない日の間隔を把握し、便秘薬を服薬したり、食事にさつまいも、ごぼう等繊維物を取り入れたり、老化を歩行器で歩かれたり、毎朝のラジオ体操等行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2~3回の入浴の他に裏の畑に出られて、汗をかかれたときは、シャワーを使用されたり、本人の希望時にはいつでも入浴していただけるようにしている	入浴を億劫がる入居者もあり、長風呂の習慣を利用して、最後に入浴してもらうなどの工夫をしている。皮膚の乾燥を防ぐための入浴剤や湯上がり後の乳液塗布等、個々に応じた支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに応じて、ベッドや畳での布団使用等、生活習慣で湯たんぽ等使用されている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の管理をし、誰がどの薬を飲んでいるのか明確にし、緊急時にはすぐ持ち出せるようにしている。服薬の支援と症状の変化に応じて、Drと相談調整している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフとともに歌を歌ったり、貼り絵や壁飾りの作品を作ったり、畑で芋ほりをしたり、季節の花を見に行ったり、ドライブに出かけたりしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には一緒に買い物等の外出をしたり、家族と相談に自宅で一泊されたり、家族で旅行に出かけられたりしている	職員は季節の行事としての外出の後、「よかった、また連れてって」との入居者の言葉で一緒に楽しむことができた喜びを感じている。初詣に参加できなかった入居者には、室内にダンボールで鳥居を作り、お参りを演出するなどの工夫をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談の上である程度の金額をもたれ、化粧品や生活用品等を購入される方もいる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使ってもらえるようにしている。職員が番号を押し、話していただく場合が多いが、補聴器等使用している方にはスタッフが一緒にきて補助している。手紙はスタッフが預かり、投函している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、手作りの作品を飾って、家庭の雰囲気を出すようにしている	各ユニットの玄関スロープには季節の花が咲き、玄関には靴に着脱がしやすいようにベンチが置かれ、廊下には入居者の陶芸作品、習字や塗り絵が飾られている。ホーム内は空調や換気が管理され、明るく、広々としたリビングでは、食事の後も居間で寛ぐ入居者が多い。事務室や職員休憩室は、廊下を行ったり来たりする入居者が部屋の中の様子を垣間見ることができ、安心感につながっている	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、TVをおいていつでも自由に使えるよう、支援している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なもの以外は、使い慣れたものを部屋においてもらっている。時には、本人の意向も聞き、模様替えもする	入居者のADLに合った生活ができるように、ペットやカーペットが使用されている。好きな生花やブリザードフラワー、家族の写真やお気に入りの作品を飾ったり、自宅からベッドやタンス等を持ち込まれ、各入居者や家族の生活への意向が取り入れられている	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に目配り、気配り、心配りに心がけている。自分で出来ることはしていただき、出来ないことは手伝ったり助言をしている		